

第155回定例研究会

2月18日(木)

於:国労会館およびZoom

日中韓の大学間交流による 学生の対外意識の変化

報告者：杉村 豪一 氏（常葉大学法学部）

○この研究のテーマ

本研究では、留学経験が学生の国際認識に与える影響を明らかにします。日中韓の国際関係の悪化や人々への相互不信が問題視されており、この問題の解決・緩和の糸口として大学間交流の役割に注目が集まっています。海外の大学で学ぶことを通じて、彼らの他国に対する認識やアイデンティティはどのように変わるのか？日中韓の大学間交流プログラムである「キャンパス・アジア」への参加者を対象に行ったアンケート調査の結果から考えてみます。

○「キャンパス・アジア」とは？

2009年の日中韓サミットにて「キャンパス・アジア」の設置が決定され、2011年からパイロットプログラムが開始されました。その背景としては、①高等教育の国際化による大学の大学間の競争、各国への留学需要の高まり、②国家間関係の悪化と各国の東アジア重視の外交があります。その目的としては、①地域を視野に入れた人材育成、②東アジア共同体を視野に入れた相互理解の促進があります。

○アンケート調査の概要

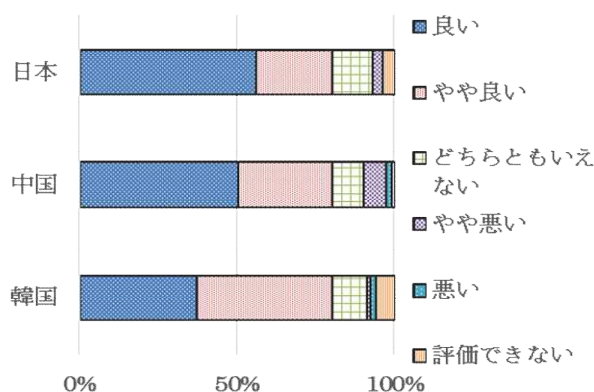
2019年12月9日～2020年3月27日に、神戸大（日本）、復旦大（中国）、高麗大（韓国）を対象に、webアンケートを依頼し約100の有効回答を得ました。（アンケート結果の一部は右図参照）

○結論

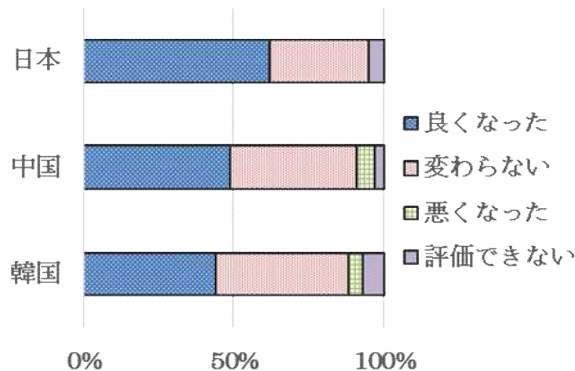
キャンパス・アジアへの参加は友好的な対外認識や地域的なアイデンティティの形成を促すことが明らかになりました。ただし、その影響は東アジアの国や地域にのみ及ぶのではなく、世界全体につい

での認識も変わります。また、影響の大きさは渡航先やプログラムへの満足度など、様々な要因に依存し、実際に学生が何を体験するのが重要となります。東アジアにおける大学間交流は学生の国際認識という点において該当地域の調和・協調に貢献し得ることが言えます。ただし、大学間交流からこうした効果を引き出すためにはよく考えてプログラムを設計する必要があります。

次の国に対する印象



留学後の変化



*連絡先：〒420-0851 静岡市葵区黒金町55番地 静岡交通ビル3階（静岡県評内）

静岡県労働研究所 TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973

メール roudouadv@wave.wbs.ne.jp ホームページ <http://shizuokarouken.sakura.ne.jp/index.html>